

農村資本蓄積實態調査(二)

熊本縣天草郡栖本村に於ける調査

大田 遼 一郎

一、調査方法

(一) 全體的把握

農業會郵便局の預貯金等受揚高を調査し、資金の蓄積及流動状況の一般的傾向を觀察した。

銀行は地方事務所々在地木渡町に肥後銀行天草支店があるが、直接銀行に對し取引勘定を持つ農家数は極めて少であるため、これが調査を省略した。

現金所得の諸源泉、形態に關しては、村役場、農業會、漁業會、薪炭組合等について全體的觀察を行つた。

(二) 個別的觀察

形態別代表農家の選擇調査については、調査内容の性質、補助員の経験等を考慮して、今回は一應最小限度に止め、對象農家の各個についてでき得る限り正確な實態を取り出すように務めたが、調査戸數の少いために、全般的平均的な數

字として缺くる所あり、(一)に依る總體的把握を裏付けるには甚だ不十分であつた。

調査項目は統一、比較上の便宜等の點をも考え、「農業綜合研究」第二卷第一號(通稱第二號)所載の埼玉縣根岸研究員の大澤村、松久村における方法を大體用いさしていただいた。

即ち、貯金高(農業會、郵便局預貯金、保險等昭和二十二年十二月末現在高)、現金所持高(同上現在高)、現物化保存高(家屋、作業場建増設、農機具、家畜、運搬具等終戦後二十二年十二月末迄に至る購入高)、經營生活投資高(肥料、飼料、農業、種苗、衣料、醫療、冠婚葬祭、教育費等二十二年度所要高)とした。

一、預貯金の動向

(一) 農業會、郵便局別蓄積高

昭和二十二年二月末現在

區	分	金	額
農業會	自由預金		五六〇、九〇六

封鎖預金	定期預金	郵便預金	計
二八四、五三二	一〇、八二〇	二九、六三九	九五〇、〇〇〇
			一、八三五、八九七

(二) 栖本郵便局預入拂出状況

年 月	預 入 高	拂 出 高
二二年 一月	二三一、一六二	三八〇、一七四
二月	一四四、一一二	三〇七、一四〇
三月	三一四、〇五六	六八四、五七二
四月	二三六、九六五	五四二、八一〇
五月	二一〇、〇四五	五〇四、八五三
六月	八八、四二七	一八三、三一六
七月	三六、四〇〇	一〇八、八四七
八月	七一、〇四四	一八〇、八一九
九月	一一〇、〇〇一	一四九、九八六
一〇月	八四、六三六	一一八、〇六八
十一月	七五、四五八	一一三、九八三
十二月	一九九、〇〇九	二六五、八八〇
計	一、八一、三一五	三、五四〇、四四八

差引一、七二九、一三三圓拂出超過となつてゐる。

預入の大部分は自由貯金であるが、農家資金の動きの活発な五月迄を境とし、六月以降激減している。九月、十二月増は、供出代金受取の少額預替、仔牛、果樹、野菜收入の一部預入によるものとみられる。

拂出は五月迄旺盛であるが、その後激減しているのは封鎖預金が漸次潤滑して来たものとみられる。

栖本村總戸數一、一〇〇のうち農家戸數八九〇漁業戸數一三〇であるが、漁業者のうち昭和二二年末において封鎖貯金を持つてゐるのは僅か三戸である。しかもその三戸共總元ではない。總元は税金の支拂や網子への又貸しのために引出してしまつてゐる。

・参考迄に十月分の預入拂出を封鎖、自由貯金別にみれば、左の通りである。

	預 入 高	拂 出 高
封鎖貯金	八、九五二	六七、四五八
生活費金引出		四四、二七〇
封鎖支拂		二三、二二八
自由貯金	七五、六八四	五〇、六一〇
計	八四、六三六	一一八、〇六八

農村資本蓄積實態調査

㊦ 定額貯金受拂高

計	二二年											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	一〇月	十一月	十二月
受入高	六二、四〇〇	二二、〇〇〇	二八、五〇〇	三、七〇〇	三三、四〇〇	八、五〇〇	一、〇〇〇	三、三〇〇	一八、〇〇〇	五、〇〇〇	二、〇〇〇	一四九、二〇〇
拂出高	五一、三六一	三九、二二八	五三、三五九	七九、七一四	一一五、九一八	一二、六六五	六、六四五	四一、六四四	一一五、九一八	一〇、〇六八	一三、二二〇	五五、六〇三
計	一一、〇八九	一六、七七二	二四、一四一	七四、七一四	一一八、四八三	九一、八三五	六四、三三五	八、六五六	二、〇八二	五、〇三二	一、七八〇	九三、五九七

差引二五七、二四三圓の拂出超過である。

この定額貯金の受拂は前項に入拂出高の中に含まれているものであるが、貯金固定化の傾向は極めて鈍い。年末受入増は郵便局側の戸別訪問的な勧誘努力に依る。昭和二二年度の農村貯蓄目標額は三一萬五千圓であつた。同じ郡内でもインフレ景氣をうたわれている漁港牛深町になると、二二年度目

㊦ 簡易保険受拂高

計	二二年											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	一〇月	十一月	十二月
受入高	六、二五四	八、七三六	六、六八四	四二、一四七	一九三、二三六	四二、四一四	六、八八四	六、七九九	一九、二九九	一九、九六三	六、九九六	八、一四五
拂出高	九七六	一、二一一	一、〇五九	二、〇一一	三、一七二	三、三二九	一、一一一	一、四五七	四、二二二	八、六四八	九九二	一、九一七
計	五、二七八	七、五二五	五、六二五	四十、一〇〇	一八〇、〇六四	三九、〇八五	五、七七三	五、三四二	一五、〇七七	一一、三一五	五、〇〇四	六、二三三

受入の三分の二が現金で残りが封鎖拂という傾向である。

㊦ 農業會自由預金受拂高

二二年	受入高	拂出高	残高
一月	四	四	一七、六〇〇
計	四	四	一七、六〇〇

二三年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	一〇月	十一月	十二月
	一八、三〇・六八	五五、九三・九八	二六、七三・五五	二五、六七・九〇	二、〇四八・九八	四、七八・二九	六、四四・八七	六、七六・七三	六、七三・〇五	五、四六・一八	七、〇四九・〇二	二九、八六・七〇
	三、八五・〇六	一七、〇六・五五	三六、九三・五七	二六、四三・九三	一七、四六・六六	一三、四〇・八八	七、二八・八八	三、四三・四九	三、八八・〇三・三三	二、七三・〇〇	二九、八六・七三	一〇、〇八・六六
	三、七六・七三	六、三九・九八	六、五〇・〇三・九八	五、九四・七三・八五	四、六三・三〇・七七	三、〇〇・四七・四八	三、三三・六四・四三	六、五〇・〇九・五五	五、四三・三三・〇九	四、九七・七三・七三	三、三三・一九・三六	五、〇九・九三・三三

自由預金の受入は大部分供出代金の振替分である。十二月、から一、二、三月迄受入高の多いのは、玄米、甘藷の分割支拂代金である。八月の急増も麥、馬鈴薯の供出代金である。引出のカーダは受入着増の月と次月に互つて高まるが、一般に平均化されている。従て磯高も、季節的異動を別にして急減の氣配を示していないが、これは一應村の農家經濟に相當の餘力あることを物語るようである。但しそれが全般的であるか一部農家についてであるかはこの表では明瞭でない。

三、現金所得の總體的觀察

昭和二三年度における當村農家經濟現金所得の主なる諸源泉及び農様は左の通りである。

供出諸收入	
玄米	三、二三九俵
稗麥	一、四二六俵
馬鈴薯	八、二八七貫
甘藷	二三七、〇〇〇貫
其他	二、五九一
計	六九二、三六四
林業收入	
材木	三、〇〇〇石
薪炭	八〇、七〇六束
計	六、六〇三俵
畜産收入	
仔牛賣買高	三三頭
畜産收入	六九〇貫
園果樹收入	
蜜柑	三、〇〇〇貫
柿	八、〇〇〇貫
計	一一〇、九四四
其他收入	
計	六六六、九〇〇圓
其他支出	
計	二二五、六四四圓
其他支出	
計	二六八、〇〇〇圓
其他支出	
計	三三〇、〇〇〇圓

計

五八八、〇〇〇

煙草收入

葉煙草收買高

七、〇〇〇疋

四二〇、六六九圓

以上は一應の公的數字若はそれに近い推定額であるが、當村の兼副業の種類と内容も大體うかがわれる。この他現金収入の源泉としては、山林勞働、日傭勞働賃銀、若干の蔬菜販賣、手工業收入等があるが、金額としての比重は小さい。

次に現在のインフレーション經濟において、殆どすべての農家が多少かれ少かれ營まざるを得ない統制外の私的取引について、その實態を捕捉しなければ、現金所得の全貌を把握し得ないわけで、前記各項目のうち、果樹收入を除いた他のすべてに「別收入」が照應するであろう。それぞれについて一應の推定は行つてみたもの、もとより正確は期し得ないので、その數字は省略する。ただ當村の場合、買出の不便等によつて主食類の横流れは金額としてもさしたる多額ではなく、その形態も魚類、衣料等との物交が主である。蔬菜類もまた殆ど自家消費の

みであるから、都會近郊の畑作農村と違つて問題にならない。

かくして「私的現金収入」の大宗は、一部の地主、富農層においては林業産物であり、中小農においては仔牛の密買及び甘藷を原料とするし、ようちう、粉りにあるといわれている。それらの手段は原料の餘裕もない最貧農層にとつては、山働きの賃銀収入の補充があるだけである。全國の水準をはるかに下廻る經營面積の狭小性、土地生産力の低位性、商業的農業の未發達等に依り、供出代金の正常收入のみを以てしては經營生活費を支ふるにも困難であるから、一般的に資金の蓄積若くは臨時の支出をまかなうためには、いきおい以上のような形の非正常ルートに依存せざるを得ないこととなるであろう。

なお農家經濟とは別に、漁民部落における漁業收入は大體三六、〇〇〇圓三、六〇〇、〇〇〇圓程度と推定される。ここからは溢積餘裕は殆ど認められない。

四、農家別選擇調査

階層別	家族員	耕作面積	山林	貯金高	現持高	現物化	經營生活	農債	村	計
地主	七人	二〇、三〇〇畝	一〇、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	一、七〇〇、〇〇〇円	二、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	二、〇〇〇、〇〇〇円	一、五、七〇〇円	
地主	六人	一八、一〇〇畝	三、〇〇〇円	一、〇〇〇、〇〇〇円	二、四〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	三、〇〇〇、〇〇〇円	五、〇〇〇、〇〇〇円	一、五、七〇〇円	

自	自	自	自	小	小	小	非	非	非
作	作	作	作	作	作	作	家	家	家
三	七	五	七	一〇	七	四	六	四	四
三〇・〇	一〇・〇	一五・〇	一五・〇	二〇・〇	二五・〇	三〇・〇	四〇・〇	三〇・〇	三〇・〇
二	二	二	一	五	三〇	三〇	一	一	一
〇・二	〇・二	二	一	一〇	一〇	一〇	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100
〇七	二	六	二	二	三	三	二, 800	二, 800	二, 800
一五, 000	八, 000	六, 000	二, 000	一, 000	一, 000	一, 000	小舟新造 七, 500	小舟新造 七, 500	魚網補修 一, 000
二, 500	一, 500	一, 500	二, 000	二, 000	二, 000	二, 000	三, 000	三, 000	三, 000
〇七	二	二	一	二	二	二	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100
〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	一, 000	一, 000	一, 000
〇七	二	二	一	二	二	二	三, 000	三, 000	三, 000
〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	〇〇, 100	三, 000	三, 000	三, 000

以上の個表調査の範圍内では、現金収入を中心とする所得の諸源泉、兼事業の別、兼業の種類、内容、更には裏側の経済活動の程度などを明かにし得ないから、單に階層別、經營面積の廣狭等だけで、資金の集中、蓄積者は偏在度などを結論づけることはできない。階層的には地主であつても、耕地にのみ依存して、引揚者等の場合、經營面積の廣い或は副業を旺盛にいとなく自作や小作に對して、經濟生活の内容がはるかに劣ることのあるのは、土地改革進行途上にある現在農村のものと

ところで見受けられる現象であるが、その傾向はこの小表からもおおむね相當規模の山林を所有し、既蓄積の財産を保持しているから、在來經營の維持擴張も、農村工業への轉換も、最も容易であることは明かである。

中小農にあつては、貯金、現金所持高いすれも一應の餘力のあることを示しているが、衣料購入、醫療費、冠婚葬祭費等の消費比軍の大きいことが目立つ。現物化保存においては、納屋

の新増設が牛の購入等である。その資金調達も僅かながら保有していた山林を売却したりしている。非農家のうちア、ミの場合などは借金こそあれ、蓄積どころではないことを示す。

所得の内容にまで相當突込んだ調査としては、次の一例を參考迄に附記する。自小作ではあるが、田畑合せて七反程度を耕作しているから、當村の經營規模としては中農の部類である。

利殖的な才能に長けた農民として近隣でも認められている。現金所得の内容を検討すると(一)供出關係では水稻穀三二俵供出支米九俵六、〇〇〇圓、麥一九俵供出六俵二、四〇〇圓、甘藷五〇〇圓、實供出一二貫一八〇圓計八、五八〇圓、となつてゐる。しかしながら山畑の場合などによく見られるように、甘藷の作付申告は實際の半以下にされているのではないかと推察される。(二)保有甘藷の内譯は二五〇貫自家食糧、五〇貫種芋、一〇〇貫加工乾燥三俵、六〇貫しようちら、五〇貫生芋賣却となつて此の收入全部で一八、〇〇〇圓、(三)副業として薪賣二、四〇〇圓、竪立木等仲賣二、四〇〇圓、臨時收入四、〇〇〇圓計八、四〇〇圓、總計三四、九八〇圓となるが、副次的收入が七割除を占めてゐる。

現物化保存については、終戦後牛一頭を所有していたが、仔牛賣却が有利なことに着目して、現在は成牛牝三頭牝一を増やしている。そのうち成牛一頭一を自家飼養にして、暫は成長すれば、貸飼に出す豫定である。現在貸飼しているのは成牛二頭であるが、いずれも明年において出産する。さすれば一ヶ年

後には體共に六頭を所有する勘定になつてゐる。昨今の畜牛相場は成牛五、六萬圓費二萬圓見當であるから、自然増殖的に十數區画を現物化したことになつてゐる。なお貸飼の條件は暫に一頭おきに取ることにして、賣却された時は所有主が飼育者に飼料代として年二千圓を拂うことになつてゐる。

經營生活投資については配給肥料五〇〇圓、稻麥作付收穫時の加勞受接待費一、〇〇〇圓、衣料代配給分一、二〇〇圓、自由購入分一、八〇〇圓、醫藥費二、六〇〇圓、養齒入一、九〇〇圓、交際費一、五〇〇圓、旅費五〇〇圓、計一、〇〇〇圓となつてゐる。そのほかに仁蔘米としての現物贈與白米一斗六升大豆四升小豆二升麥粉六升を配賦してゐる。

右の農家は「連費經濟」に成功している特例であるが、有畜が農業經營自體の改善に結び付けられたり、又は牛を賣却して經營を擴充する方向には全然動いていないことが注目される。

五、資金活動の實態

(一) 工業資金

一般に事業活動は不活潑であるが、村内農村工業乃至加工業施設としては、小規模の製材場五、精米所六(内水車三)、製粉所一、製鹽所一、小造船場二程度で、そのうち終戦後の新増設は製材場三(内二家具、鮮魚箱製造場)、製鹽場一である。製材場はいずれも轉換地主及富農が山林賣却等に依る自己資金により各富氣額を拠付け建築費共投資額計六〇萬圓見

當、製鹽場は元村長の非農耕者が、一部農業會資金の流用、大部分は村外資金の調達により建設したもので、投資額約一〇〇萬圓である。そのほかに同じく轉換地主の事業として資金約二〇萬圓の榨油場一及び二〇噸程度の運搬用發動機船建造が計畫中である。

二 商業資金

零細な副業程度の小賣店を除き、農村向雜貨小賣專業店舖としては二、三軒あるが、その商品ストックは總體で五、六〇萬圓見當と推定される。その資金は、縁故關係地主の山林果樹等収入が相當額融通されているものとみられる。

三 農業資金

前記各農家の現物化保存度にもられるように、農業經營への積極的投資意欲は活潑でない。土地改良、地力増進についても同様である。肥料も交通不便の關係上ヤミ碓安の如きは大量に入手できない點もある。

昭和二二年度における農機具需要狀況は左の通りである。

費 務 器	數		金 額	
	大型	小型	金	額
製 麵 機	三	一	二、三〇四	四
同 類 機	二〇	二〇	七二〇	
製 麵 機 (足踏)	二	二	四四、八六〇	
			三二、七五〇	

農村資本蓄積實態調査

項 目	數
巧 入 器 及 鎌	七
計	一〇六、六四四

農家戸數八九〇に對し終戦前のまま原動機一〇、動力作業機七という狀況には變化はない。製麵機等の需要狀況もまだ微々たるものである。

四 其他資金

終戦後引揚者歸村や歸農者分家等により家屋の新築されたものは、納屋改造等を除いて二十餘戸であるが、殆ど農家關係である。材料は自己又は縁故者山林材木等の提供によるが、運搬費大工賃等の昂騰のため建築は盛でない。

なお村内戸數一、一〇〇に對し終戦時の無電燈戸數一八五であつたが、その後現在迄に約一四〇戸が電燈線を新設した。その費用は一戸當り二千圓乃至五千圓といわれているから、總額約四、五〇萬圓が投ぜられたわけである。

六、其 他

(一) 金利その他の動向

農家經濟における舊來の債務は一應殆ど解消しているし、事業資金の需要も不振であるために、抵當、質、信用設定に依る貸借關係の發生は顯著でない。縁故關係による資金の融通も年利八分、短期一、二割見當といわれる。

二 租税、公課、寄附金等の状況

昭和二二年度の村税七二八、〇〇〇圓、縣稅三三四、〇〇〇圓、國稅二、〇〇〇、〇〇〇圓見當である。

昭和二二年六月當村に起つた水害の復舊費として國庫補助二、四三四、〇〇〇圓、村内寄附金二、三三〇、〇〇〇圓が追加豫算として村會で組まれていたが、國庫補助が實現しないために本格的工事の繰延べとなり、村内寄附金の徴収も大部分實施に至つていないが、今後の懸案となつてゐる。

新制中學の費用は、青年學校々舎の流用に依り現在問題となつていない。

國稅については、二二年度所得稅の更正決定額が豫想以上に過大のために相當の不安をまき起しつゝあるが、一部を除いて大體納入されつゝある模様である。

三 農地改革に依る土地代金の動向

當村は農地委員會の内部事情のため昭和二二年十二月に漸く最初の買收計畫を決定した位で非常におくれているが、第三次迄の買收分田知合計約六七町歩對價三五萬圓は未交付である。買受申込における支拂方法も申込小作人四二〇名のうち二〇名が分割拂希望となつてゐる程度である。

(二二・三・二五) (熊本縣駐在研究員)

山形縣最上郡金山町に於ける調査

調査期日 二十二年十月下旬

岸 英 次

一、資金導入の経路

本町に對する資金の導入は主として左の如き生産物乃至活動を通じてなされてゐる。(①②)等は資金の量的順位を示す。

- ① 木材販賣收入…主として地主(在村)、上層富裕農家
 - ② 米 …農家及び地主
 - ③ 木 …炭・主として兼業農家、少數の專業製炭業者
 - ④ 製材活動…數ヶ所の製材工場
 - ⑤ その他商人(家畜商、魚商、職人、運搬業者)の活動
- 以下かくて導入せられた農村資金が如何に蓄積せられ、それが農業再生産活動と如何に關係するかを、與えられた調査項目に則して觀察することにする。

なお本町の金融機關としては農業會信用部、庄内銀行支店、郵便局(貸付は殆どなし)の三機關が存する。

一、調査事項

(1) 貯蓄方法の動向

(a) 農民